

## 群馬県立女子大学 教育研究業績一覧（令和5年度分）

### 国文学科

#### 【著書】

- 新井小枝子：共著 『方言地理学の視界』 「第12章 民俗語彙と方言地理学—〈井戸〉を表す語彙」 勉誠出版 令和5年5月
- 板野みづえ：単著 『新古今時代の和歌表現』 花鳥社 2024年1月
- 井上一之：単著 『陶淵明集の詩想』 研文出版 令和5年5月

#### 【論文】

- 新井小枝子：単著 「〈シモツカレ〉を表す語の形式と方言分布」『とちぎの食文化調査研究 発信事業シモツカレ調査報告書』 栃木県教育委員会事務局文化財課編 令和5年3月
- 市川祥子：単著 「通夜物語」の上演をめぐる一喜多村緑郎の丁山—『群馬県立女子大学国文学研究』第44号 令和6年3月 単著 「天守物語」初演の実際—使用台本の検討から—『群馬県立女子大学紀要』第45号 令和6年2月 単著 鏡花をめぐる人々 里見淳『泉鏡花生誕一五〇年記念 鏡花の家』、平凡社 令和5年10月
- 井上一之：単著 「李公煥本『箋註陶淵明集』について」 早稲田大学『中国文学研究』第四十九期 令和6年3月 単著 「近世日本における陶淵明像—『合刻忠武靖節集』を中心に」 『群馬県立女子大学紀要』第45号 令和6年2月
- 佐藤洋美：単著 「よるべなき中將の君—『源氏物語』「幻」巻における紫の上追慕をめぐる—」 『群馬県立女子大学国文学研究』第44号 令和6年3月 単著 「侍従の誓い—『源氏物語』「蓬生」巻における「たむけの神」をめぐる—」 室城秀之編『言葉から読む平安文学』 武蔵野書院 令和6年3月
- 鈴木崇大：単著 『山部赤人論』 和泉書院 令和6年3月（予定）
- 富岡宏太：単著 「中古散文における詠嘆の「か」の位置づけ」 『群馬県立女子大学国文学研究』第44号 令和6年3月 単著 「ことばをくらべて考えるための「現代語訳」」 『文学・語学』第239号 令和6年1月
- 二村博：単著 「出羽の俳僧鹿苑舎淋山」 『群馬県立女子大学紀要』第45号 令和6年3月 単著 「栗庵似鳩の俳諧活動 - 俳諧中興期における上毛来訪経緯」 『群馬県立女子大学国文学研究』第44号 令和6年3月

#### 【訳書・教科書・書評等】

- 市川祥子：日本近代文学会 編集委員 令和5年4月～

井上一之：共訳 「『菁莪堂集』全訳注稿(2)」 『群馬県立女子大学紀要』第45号 令和6年2月 群馬県立女子大学『大学院諸究』編集委員

二村博：『文学・語学』編集委員 令和4年8月～令和6年7月

#### 【学会・シンポジウム・講演等の発表】

新井小枝子：令和5年5月19日 郷土料理〈しもつかれ〉を表す語の形式と方言分布  
日本方言研究会第116回研究発表会（於 青山学院大学）

市川祥子：令和5年8月 「天守物語」初演の実際—使用台本の検討から— 第77回泉鏡花研究会大会

井上一之：令和5年12月 「陶詩解読のためのいくつかのポイント」早稲田大学文学部中国文学会

二村博： 令和5年12月 「群馬の俳諧を掘る講演会」NPO法人境いきいきアイ主催 「栗庵似鳩と上毛の門人たち」 令和5年6月 「上毛俳壇の指導者栗庵似鳩」 群馬県立女子大学国語国文学会

宮内洋：令和5年9月12日シンポジウム「生涯発達と〈生活—文脈〉理解」、〈生活—文脈〉理解研究会主催シンポジウム（愛知県立大学）

## 英 米 文 化 学 科

#### 【著 書】

小林隆：分担執筆 「I don't know の意味の広がりを知語法でとらえる：認知語用論的アプローチ」 『認知言語学論考17』（山梨正明（編）） ひつじ書房 令和5年11月

#### 【論 文】

飯村英樹：単著 「再現を目的とする活動の比較：復唱、書き取り、暗唱、書写の難易度」九州英語教育学会. 『九州英語教育紀要』第10号, 1-9. 令和5年7月 共著 「日本人英語学習者のための音読評価用尺度の開発：ループリックに基づいた二値選択・境界定義（RBB）尺度の提案」 日本音声学会. 『音声研究』第26巻第3号, 135-146. 令和5年4月

小林隆：単著 「I don't know の談話的用法に関する認知的考察」『日本認知言語学会論文集』第23巻 令和5年4月

小林徹：単著 「なぜ『失楽園』なのか—ミルトンの叙事詩を読む、叙事詩のジャンルを読む—」『群馬県立女子大学紀要』 第45号（群馬県立女子大学、令和6年2月）：57-69

松崎慎也：単著 "Animism Has Always Mattered—Naturally among English Romantics." *Romantic Ecologies: Selected Papers from the Augsburg Conference of the German Society*

for English Romanticism. Edited by David Kerler and Martin Middeke. *Studien Zur Englischen Romantik*, Band 24 (WVT Wissenschaftlicher Verlag Trier) 令和5年9月

**【訳書・教科書・書評等】**

笠井俊和：令和4年4月～令和6年3月 『西洋史学』（日本西洋史学会）編集幹事・編集委員

小林隆：共訳 『認知言語学を英語教育に応用する：応用認知言語学の方法』 担当「第4章 英語法助動詞習得に認知言語学を応用する一実験による証拠」(原書: Tyler, Andrea. 2012. *Cognitive Linguistics and Second Language Learning*, Routledge.) 開拓社 令和5年7月 日本認知言語学会 論文集・予稿集編集委員会委員 令和4年4月～

小林徹：令和3年4月～令和6年3月 名古屋大学英文学会『I V Y』編集委員

**【学会・シンポジウム・講演等の発表】**

飯村英樹：令和5年12月 「再現を目的とする活動における誤り分析」 第51回九州英語教育学会熊本研究大会・熊本大学 令和5年9月 「ループリックに基づく二値選択・境界定義 (RBB) 尺度の実用性に関する一考察」(共同研究) 日本言語テスト学会第26回全国研究大会・東北大学 令和5年8月 「再現活動の難易度：復唱、書き取り、暗唱、書写の比較」全国英語教育学会第48回香川研究大会・香川大学

木下耕介：令和5年6月11日 「物語映画のグラフィックな語り ——映画のデータ・ストーリーテリングについての試論」日本映像学会第49回大会(2023年度) 令和5年11月11、12日 日本演劇学会研究集会(福岡女学院大学)企画運営委員会として参加 令和5年6月23～25日 日本演劇学会全国大会(於：近畿大学)企画運営委員会として参加

島田協子：令和6年3月 前橋文学館企画展「飛行機乗りと風船乗り『ふはりふはりと昇って行かうよ。』」講師 「英米文学と気球、朔太郎の『ふはりふはり』」 前橋文学館

## 美学美術史学科

**【著書】**

青田麻未：分担執筆 *Aesthetic Theory Across the Disciplines* (担当範囲：Aesthetics and Environmental Humanities: The Fieldwork on Ourselves) Rowman&Littlefield 令和5年12月

藤沢桜子：共著 群馬県立女子大学群馬学センター編『ユリノ木と群馬学 —— 建築と彫刻から探るキャンパス景観 —— 〈第41回群馬学連続シンポジウム記録〉』『地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産』vol. 11、2023年、執筆担当「群馬県立女子大学の歴史資料調査／ヒストリー」 編著 『2022-2023年度 「ユリノ木物語 群馬県立女子大学の歴

史研究」プロジェクト活動報告書』 令和6年3月刊行予定

### 【論文】

青田麻未：単著 「気候変動と現代アート——オラファー・エリアソンを事例として——」  
『群馬県立女子大学紀要』45号, 1-11 ページ, 2024年 単著 「都市のモビリティによる「セレンディピティ」の美的経験——ネットワークベースの都市的発見——」  
*Contemporary Applied Philosophy* Vol. 15 ページ数未定 (2024年3月刊行予定)

奥西麻由子：単著「高崎市立美術館における連携事業の実践に関する報告Ⅱ—生涯学習としてのイラスト制作の可能性—」群馬県立女子大学『群馬県立女子大学紀要』第45号、令和6年2月

三宅秀和：単著 「狩野光信の装飾料紙—国立国会図書館所蔵「賦何船連歌」を中心に」『群馬県立女子大学研究紀要』45号 令和6年2月 単著 「狩野派の源氏絵 —展開と特質—」稲本万里子監修『源氏物語 THE TALE OF GENJI —「源氏文化」の拡がり 絵画、工芸から現代アートまで—』（展覧会図録）令和6年2月

### 【訳書・教科書・書評等】

青田麻未：令和4年10月～現在 『Contemporary and Applied Philosophy』編集委員 令和4年10月～現在 ASLE-Japan/文学・環境学会発足三十周年記念論集 編集委員 雑誌『美学』（美学会発行）査読担当

奥西麻由子：令和5年8月～現在 環境芸術学会 学会誌編集委員

### 【学会・シンポジウム・講演等の発表】

青田麻未：令和5年10月 口頭発表「ジョン・デューイの美的経験論と日常美学——カッレ・プロラッカによる整理を中心として——」 第74回美学会全国大会 慶應義塾大学三田キャンパス 令和5年5月 口頭発表 “The Time of Urban Parks: Aesthetic Experience of Nature in the Life of Tokyo” Designing Everyday Experience モホリ＝ナジ芸術大学（ハンガリー・ブダペスト） 令和5年4月 口頭発表「都市におけるモビリティの美的経験——親しみ、新奇さ、偶然性——」 応用哲学会第15回年次研究大会 金沢大学角間キャンパス 令和5年11月 東京大学「ポストコロニアリズム・エコクリティシズム研究」ゲスト講義 「環境美学におけるネイチャー・ライティングの貢献」 令和5年10月 新潟大学人文学部甲斐義明研究室主催講演会 「環境美学から考える風景写真」 令和5年9月 オンライン合評会『環境を批評する』共催 令和5年9月 短報「小原流のいけばなと風景」小原流『插花』 *The Polish Journal of Aesthetics* 査読担当

三宅秀和：令和4年8月 「源氏絵調査班の活動報告と今後の展望」（第9回源氏絵データベース研究会キックオフシンポジウム「源氏文化ポータル構築と源氏絵の俯瞰的・創発的研究」）

**高橋綾**：令和5年12月 環境芸術学会 第24回大田大会 口頭発表・作品発表・パネル発表 令和6年3月 令和5年度屋外広告物講習会 講師「広告物等の表示の方法に関する事項」(高崎市) 令和5年6月 環境芸術学会企画「研究部会展」企画(オリエアート・ギャラリー/東京都 外苑前)

**武藤大祐**：令和5年12月 舞踊学会第75回大会 「郷土芸能の拡散と収斂——ポストコロナの朽木古屋六斎念仏踊り」(東洋大学) 令和5年6月 舞踊学会第26回定例研究会 「ストリップとCOVID-19の共生——「本質的に不健全」な芸能の現場」(オンライン) 令和5年5月 「新型コロナ感染拡大下における芸能に関する学際的研究」2023年度第1回研究会 「コロナ禍とストリップ劇場——「本質的に不健全」な芸能の現場」(東京外国語大学) 令和5年7月 奈良県立図書館主催「十津川村の盆踊り 特別鑑賞会&講演会」における講演「伝統芸能を習う現代アーティストたち」(奈良県立図書館)

**山崎真一**：令和5年12月 環境芸術学会 第24回大会 東京 東京工科大学 口頭発表 令和6年2月 「とつかの未来地図」みらいを描こう! とつかのドリームMAP 戸塚区民文化センター さくらプラザ周年記念関連のワークショップ(神奈川)

#### 【その他】

**奥西麻由子**：グループ展 令和5年6月 「第2回 環境芸術学会 研究部会展：人と社会の活性化研究部会展 美術からの発信」 オリエアート・ギャラリー

**山崎真一**：グループ展 令和6年2月 UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川 2024 「願いをつなぐ」日切駅・「渡る願い」川越しエリア 川会所の一部再展示(静岡) 令和5年11月 SHIZUOKA ART VISION 「たなごころ」駿府の工房 匠宿から千手観音堂エリア(静岡)

## 文化情報学科

#### 【著書】

**歸山亜紀**：杉野勇・平沢和司編『無作為抽出ウェブ調査の挑戦』, 法律文化社, 第1章(分担執筆、共著), 2024年1月.

**鈴木親彦**：責任編集(監修) 『デジタルアーカイブ・ベーシックス 共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ』 勉誠出版 令和5年7月

**山崎隆広**：「フィールドとしての郡上村：初期ブルデューの農山村調査を手がかりに」 田村紀雄監修、牛山佳菜代、川又実編『郡上村に電話がつながって50年——むらの生活はどう変わったか——』 クロスカルチャー出版. [2024年3月末出版予定]

## 【論文】

歸山亜紀：共著（平沢和司・杉野勇・歸山亜紀）「無作為抽出者を対象としたミックスモード調査の可能性：ウェブ法と郵送法の比較を中心に」『現代社会学研究』36: 77-93 頁, 2023 年 6 月.

鈴木親彦：「IIIF Curation Platform：利用者・研究者主導の画像キュレーションを可能にする IIIF プラットフォーム」『西洋史学』（275） pp.56-59 令和 5 年 8 月

細川雄一郎：単著 「From *Counterfactual* Conditionals to *Temporal* Conditionals」『Journal of Logic, Language and Information』Volume 32, pages 677–706, (2023) 令和 5 年 6 月

## 【訳書・教科書・書評等】

山崎隆広：2015 年度—2024（令和 6）年 3 月現在 日本出版学会学会誌『出版研究』編集委員

## 【学会・シンポジウム・講演等の発表】

歸山亜紀：2024 年 3 月 16 日 前橋文学館企画展「飛行機乗りと風船乗り『ふはりふはりと昇って行かうよ。』」での講義「結核という病、結核という病<イメージ>」

黒田覚：2023 年 12 月 「Provability of matrix properties in formal theories of linear algebra」RIMS 共同研究(公開型)「証明論と計算論の最前線」京都大学数理解析研究所 2024 年 1 月 「Pfaffian and bounded arithmetic」第 9 回 山陰 基礎論と数学およびその周辺の研究集会 米子コンベンションセンター

鈴木親彦：令和 5 年 10 月 「『デジタルアーカイブ・ベーシックス 共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ』について」 デジタルアーカイブ学会第 8 回研究大会サテライトセッション 令和 5 年 9 月 「日本中世に描かれた人物顔貌に対する特性判断—valence-dominance モデルの適用可能性の評価」 日本心理学会 第 87 回大会 令和 5 年 11 月「群馬県立女子大学 文化情報学科での DH 教育・研究」国際シンポジウム デジタル・ヒューマニティーズと研究基盤 欧州と日本の最新トレンド

細川雄一郎：令和 6 年 3 月（予定）（国際発表）「Disagreement Among Analyses of Counterfactuals」 France-Japan Workshop on “Disagreement in Logic and Reasoning” 令和 6 年 3 月（国際発表）「From *Counterfactual* Conditionals to *Temporal* Conditionals」 Sapporo One-day Workshop on Hybrid Logic and Proof Theory 7th March 2024 令和 6 年 3 月（国際発表）「Introduction to Disagreement Among Analyses of Counterfactuals」 France-Japan Workshop on “Disagreement in Logic and Reasoning” and a Special Session on “A Humanity and Social Science Approach to Cybersecurity Research: An EU Horizon 2020 Project” 令和 3 年 6 月～現在 *The Uses of Argument* (Stephen E. Toulmin, 1958) 読書会主催（隔週火曜開催）

山崎隆広：2023 年 11 月 4 日 日本メディア学会秋季大会ワークショップ「デジタル化で

変化する同人活動をメディア研究として如何に捉えるか」(企画：ネットワーク社会研究部会)にて司会者を務める。問題提起者：玉川博章(日本大学)、小林信重(東北学院大学)、Zoomによるオンライン開催

尹鈺喜：令和5年8月 「韓国在住脱北者におけるアイデンティティ・ポリティクスと多文化主義」 日本韓国研究会第3回研究大会

## 国際コミュニケーション学部

### 【著書】

神谷信廣：学習者の口頭の間違いはどう直す？—フィードバックに迷う時に—『英語教育5月号』 大衆館書店 令和5年4月 単著 「学習者の口頭の間違いはどう直す？—フィードバックに迷う時に—」『英語教育5月号』 大衆館書店 令和5年4月

甲村美帆：分担 甲村「第1章第2節2 令和の日本型学校教育におけるICT」(in 小原・北島(編著)『未来を拓くICT教育の理論と実践』p.19-22, 2024年2月14日, 東洋館出版社)

野口和彦：共著 『インド太平洋をめぐる国際関係——理論研究から地域・事例兼研究まで——』芙蓉書房出版、令和6年1月。

原谷直樹：共著 久保真・中澤信彦編『経済学史入門：経済学方法論からのアプローチ』昭和堂 令和5年4月

山岡健次郎：共著 「モビリティーズの社会学」 有斐閣 令和6年 共著 「移動と境界—越境者からみるオーストラリア」 昭和堂 令和6年

### 【論文】

梅田真理：共著 「Second language processing of English definite noun phrases by Spanish speakers and Japanese speakers」 『Special Issue: Cutting-Edge Research in SLA in Japan. Journal of Second Language Studies』 John Benjamins. 令和6年2月 共著 「An investigation of subject-orientation in the processing of Japanese reflexive zibun by native Japanese and Chinese-speaking learners. Journal of Second Language Studies」 『Special Issue: Cutting-Edge Research in SLA in Japan. Journal of Second Language Studies』 John Benjamins. 令和6年2月 共著 「Bilingual processing of binding relations in the non-dominant language: The case of Japanese heritage language speakers in Hawaii」 『言語科学会 第24回国際年次大会ハンドブック pp. 108–110』 令和5年9月

小笠原奈保美：単著 「効果的な災害時避難伝達文」 『日本音響学会誌』 (2024年80巻3号 pp.134-141.) 掲載予定

神谷信廣：単著 「Learners' Preferred L2 Vocabulary Learning Modalities: Iconic Gestures

Are Not Necessarily Most Effective for All Learners」『Instructed Second Language Acquisition』 令和6年 単著 「Is the Common Test for University Admissions in Japan enough to measure students' general English proficiency? The case of the TOEIC Bridge」『Language Testing in Asia』 令和6年

N.スネイプ：Kupisch, T. and N. Snape. (2024). Articles: Genericity. In T. Ionin, S. Montrul, and R. Slabakova (eds.) *The Routledge Handbook of Second Language Acquisition, Morphosyntax and Semantics*, (pp. 195-209), Routledge. Snape, N. (2023). 第二言語習得に 5 おける冠詞の習得 - 明示的知識と暗示的知識 [Acquisition of articles in second language acquisition: Explicit and implicit knowledge]. In A. Otaki, K. Suda, Y. Nakagawa and H. Yokota (eds.), 第二言語習得研究の科学 3 - 人間の能力. (pp. 83-101), Kurosio Publishers. Snape, N. (2023). 揺らぎ仮説 (The Fluctuation Hypothesis) and a summary of R. Hawkins and C. Y. H. Chan (1997) "The Partial Availability of UG in SLA: The Failed Functional Features Hypothesis." In N. Yusa, M. Koizumi, T. Nomura, K. Masutomi (eds.), 言語理論・言語獲得理論から見たキータームと名著解題 [Key terms and commentary on well-known books from the perspective of language theory and language acquisition theory], (pp. 106-107; pp. 202-204), Kaitakusha Publisher. Hirakawa, M., M. Umeda, N. Snape and J. Matthews (2024). An investigation of subject-orientation in the processing of Japanese reflexive zibun by native Japanese and Chinese-speaking learners. *Current State of Second Language Studies in Japan. Special Issue of Journal of Second Language Studies*, 6(2), 346-376. Snape, N., H. Hosoi and M. Umeda (2024). Second language processing of English definite noun phrases by Spanish speakers and Japanese speakers. *Current State of Second Language Studies in Japan. Special Issue of Journal of Second Language Studies*, 6(2), 317-345.

野口和彦：単著 「攻撃的リアリズムの解剖学」『国際安全保障研究』第51巻第3号 令和5年12月

細井洋伸：共著 Second language processing of English definite noun phrases by Spanish speakers and Japanese speakers. *Current State of Second Language Studies in Japan*, ed. by J. Matthews and S. Wakabayashi, pp. 319-347. 令和5年

#### 【訳書・教科書・書評等】

梅田真理：平成29年10月～令和6年3月31日 『Second Language』共同編集委員長

神谷信廣：平成30年6月より、三省堂 高等学校英語教科書「VISTA シリーズ」編集委員  
平成29年3月～ 『TESOL Journal』編集委員

野口和彦：共著 『国際安全保障がわかるブックガイド』 慶應義塾大学出版会 令和6年



2月。 令和5年4月～ 戦略研究学会 編集委員会 委員

日詰慎一郎：単著「自律的人材育成のためのキャリア・デザインのすすめ<sup>⑬</sup> 最終回 「キャリア・デザイン」の取組みがある職場とは？」自治実務セミナー 2023年06月号：70—71. 単著「自律的人材育成のためのキャリア・デザインのすすめ<sup>⑭</sup> 職員のキャリア形成支援のための研修の実施方法」自治実務セミナー 2023年05月号：68—69.

### 【学会・シンポジウム・講演等の発表】

梅田真理：令和5年7月 「Bilingual processing of binding relations in the non-dominant language: The case of Japanese heritage language speakers in Hawaii」言語科学会第24回国際年次大会（共同口頭発表）

神谷信廣：2023（令和5）年8月 Should we measure speaking and writing skills in addition to the Common Test for University Admissions? In the case of the TOEIC Bridge. 全国英語教育学会 第48回 香川研究大会. 単独発表. 2023（令和5）年12月 センター試験と共通テストの研究から考える英語4技能の測定. 英語教育シンポジウム～大学入試における英語4技能の測定～. 講演（オンライン）. 2023（令和5）年12月 パネルディスカッション「英語4技能を測定することの意義と課題」. 英語教育シンポジウム～大学入試における英語4技能の測定～. 司会（オンライン）. 2023（令和5）年10月 群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部における英語カリキュラムの成果と課題～TOEICクラスにおけるALC NetAcademy NEXTの活用方法～. ALC 大学・高専のグローバル化 情報交換セミナー Vol.61. 講師（オンライン）. 2023（令和5）年6月 授業実践から考える効果的なフィードバック. JACET 北海道支部大会. 藤女子大学. シンポジウム助言者. 2023（令和5）年6月 口頭修正フィードバックのメタ分析を通じた研究と実践の融合. JACET 北海道支部大会. 藤女子大学. 基調講演. 2023（令和5）年12月 英語教育シンポジウム～大学入学試験における英語4技能の測定～（オンライン）企画・運営・司会・発表 2023（令和5）年7月 J-SLARF シンポジウム 企画・運営・司会

N.スネイプ：令和5年9月「H. Zhao and M. Wang. The instructed learning of form-function mappings of L2 English generic NPs」European Second Language Association, Birmingham, UK 令和5年7月「J. Matthews, M. Hirakawa, K. Suzuki, M. Umeda, K. Takeda, M. Fukuda and N. Snape. Bilingual processing of binding relations in the non-dominant language: The case of Japanese heritage language speakers in Hawaii」Japan Society for Language Sciences 学会第24回全国大会 令和5年7月「N. Snape, H. Zhao and M. Wang. Classroom instruction vs. computer-based instruction on English generic NPs: Which produces a better outcome for L2 learners?」Japan Society for Language Sciences 学会第24回全国大会 令和5年6月「H. Zhao and M. Wang. The instructed learning of form-function mappings of L2 English generic NPs. 113th workshop of the Kanto Second

Language Acquisition Group」KASLA 2023, Tokyo 令和5年6月「T. J. Lameris, M. Kubota, T. Kupisch, J. Cabrelli, J. Rothman. Language change in Japanese-English bilingual returnee children over the course of five years: evidence from accent-rating」Phonetics and Phonology in Europe 2023, Nijmegen, the Netherlands 令和5年5月「T. J. Laméris, M. Kubota, T. Kupisch, J. Cabrelli, J. Rothman. Language change in Japanese-English bilingual returnee children over the course of five years: evidence from accent rating」HLCross2023, Istanbul, Turkey

野口和彦：令和6年1月 「米中安全保障競争」報告者 アジア共創塾 令和5年6月 防衛省陸上自衛隊教育研究訓練本部 戦略論文審査会 審査員

布田朝子：2023年6月 Fuda, Tomoko “The Changes in Myanmar Economy since 2011: National Economic Policy and Plans and Foreign Aid” at the International Burma Studies Conference 2023 (オンライン; the University of Zurich) (査読有り)

#### 【その他】

野口和彦：単著 「世界は核武装国が好き勝手できるようになるのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和5年11月16日 単著 「ウクライナ戦争の倫理的判断を問う」アゴラ言論プラットフォーム 令和5年9月30日 単著 「ロシア・ウクライナ戦争は中国の対外政策にどんな影響をおよぼすか」アゴラ言論プラットフォーム 令和5年8月24日 単著 「ウクライナ軍の『反転攻勢』は、どのくらい成功する見込みがあるのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和5年6月2日 単著 「道徳主義の誤謬を犯す専門家たち」アゴラ言論プラットフォーム 令和5年5月24日 単著 「国際関係論のすすめ」アゴラ言論プラットフォーム 令和5年4月20日

深谷晃彦：令和5年12月18日～19日 言語機能科学ワークショップ（於 お茶の水女子大学）参加

山岡健次郎：令和5年2月 「豪州ボネギラ移民受け入れ・訓練センターの調査」

### 群馬学センター・地域日本語教育センター・キャリア支援センター

#### 【著書】

築瀬大輔：共著 『ぐんま地域文化遺産フォーラム2023記録集 災害ミュージアムはいま』（群馬歴史資料継承ネットワーク編、群馬県立女子大学群馬学センター刊、2024年3月、WEB版） 共著 『古墳の履歴書調査報告書』（古墳の履歴書研究会／科研採択研究成果報告、2024年3月） 共著 『鎌倉武士のアーバニズム〈都市的性格〉—京都・鎌倉、そしてぐんま—（地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産 Vol.12）』（群馬県立女子大

学群馬学センター、2024年1月) 共著 『ユリノ木と群馬学—建築と彫刻から探るキャンパス景観—(地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産 Vol.11)』(群馬県立女子大学群馬学センター、2023年10月) 共著 『館林市史 別巻 館林の絵馬』(館林市、2023年8月)

### 【訳書・教科書・書評等】

築瀬大輔：展示批評 「行田市郷土博物館開館三十五周年記念・第15回特別展「天正十八年～関東の戦国から近世～」(『地方史研究』423号、2023年6月) 令和4年～現在 『群馬学研究・KURUMA』(群馬県立女子大学群馬学センター) 編集委員 単著 「長楽寺永禄日記勉強会と「瀬端」の景観」(『地方史研究』425号、2023年10月)

### 【学会・シンポジウム・講演等の発表】

築瀬大輔：令和6年3月24日 「ぐんま史料ネットを含む地域連携における大学の役割について」〈シリーズ・時代の画期を問い直すI〉2023年度歴史文化資料保全首都圏大学協議会・群馬域における資料保存・継承の現在(主催：人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学共同利用機関ネットワーク事業」、共催：群馬県立女子大学群馬学センター、会場：群馬県立女子大学) 令和5年9月23日 「『天正十八年』以前の徳川家康と関東」第43回群馬学連続シンポジウム「関東徳川史観と『天正十八年問題』」 令和6年3月24日 2023年度歴史文化資料保全首都圏大学協議会・群馬域における資料保存・継承の現在(主催：人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学共同利用機関ネットワーク事業」)を群馬学センターとして共催し運営に従事(会場：群馬県立女子大学) 令和6年2月17日～18日 第10回全国史料ネット研究交流集会 in 首都圏(主催：人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学共同利用機関ネットワーク事業」)運営に主催者実行委員として従事(会場：一橋大学) 令和6年1月27日 第44回群馬学連続シンポジウム「自然災害伝承碑は警告する」〈シリーズ・群馬の災害文化I〉(主催・会場：群馬県立女子大学 令和5年10月21日～23日 2023年度・第73回地方史研究協議会(館林)大会「“川合”と“里沼”—利根川・渡良瀬川合流域の歴史像—」の運営に主催者・実行委員長として従事(会場：日清製粉ウェルナ三の丸芸術ホール) 令和5年9月23日 第43回群馬学連続シンポジウム「関東徳川史観と『天正十八年問題』」〈シリーズ・時代の画期を問い直すI〉(主催・会場：群馬県立女子大学